

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	ヒューマンコンピュータインタラクション特論		
英文授業科目名	Human Computer Interaction Technology		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-電子工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	電子工学専攻		
担当教官名	角田 博保		
居室	西9-435		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kakuda@cs.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>ヒューマンインタフェースという対応領域は広範であるので、本講義では、計算機システムを利用する際のヒューマンインタフェース、つまり、計算機と人間の対話（Human Computer Interaction）に焦点をあて、対話型システムにおける人間の行動の理解、および、人間中心のアプローチを使用した対話型ソフトウェアの開発および評価方法に関する知識の獲得を目標とする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
ヒューマンインタフェース（学部情報工学科3年次前学期開講）

【教科書等】
<p>S.K. Card, T.P.Moran and A. Newell: The Psychology of Human-Computer Interaction, Lawrence Erlbaum Associates (1983).</p> <p>Jenny Preece, et al.:Human-Computer Interaction, Addison-Wesley (1994).</p> <p>Jenny Preece, et al.:Interaction Design, John Wiley & Sons, Inc (2002).</p>

【授業内容とその進め方】

以下に示すような課題について講義する。

第1回： 計算機と人との対話 (Human Computer Interaction) とは

第2～5回： 人間の行動の分析に必要な知識

認知心理学的モデル、メンタルモデル、概念モデル、学習、社会的様相

第6～7回： 対話装置および技法

入出力装置、ウィンドウシステム

第8～9回： インタラクシオンデザイン・方法と技術

ユーザ中心設計の原理と方法、要求収集、タスク分析

第10～11回： インタラクシオンデザイン・デザイナー支援

ガイドライン、標準化、プロトタイピング

第12～13回： インタラクシオンデザイン・評価

実験、ベンチマーク、解釈評価、予想評価

第14～15回： 適用事例

ウェブユーザビリティテスト、ウェブエクスペリエンス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

授業途中で出す課題のレポートにより評価する。毎回出席をとる。出席が少ないと減点する。出席に関する評価10%、レポートに関する評価90%。

評価基準：以下の到達レベルをもって合格の最低水準とする。

人間の行動の分析に必要な知識について、的確に説明することができる。

人間中心設計の要求収集・設計手法について説明ができ、簡単な例題について適用することができる。

人間中心設計の評価手法について説明ができ、簡単な例題について適用することができる。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、事前にメール等でアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

毎回必ず出席し、レポートに答え、着実に理解を深めていってほしい。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【その他】
なし